（別添様式４）

令和２年度　学校評価実施報告書

学校名（京都市立中京中学校）

教育目標 豊かな心を持ち，自ら学び地域社会に貢献する生徒を育む	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況，次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10 月 20 日	学校運営協議会
最終評価		

（１）「確かな学力」の育成に向けて　『学力向上プラン』

重点目標

◇基礎基本の徹底と，キャリア教育の視点から，自ら学び・自ら考える力を育成する。

具体的な取組

① よんきゅう絆プロジェクト（９年間の学び）を達成するために努める。
② 繰り返し学習等を通し，基礎的基本的な知識・技能の習得の徹底に努める。
③ キャリア教育の充実を図り，グループ学習やポスターセッションを活用し，コミュニケーション能力をはじめとする基礎的汎用的能力の育成に努める。
④ 生徒全員の学力を伸ばす指導と，学習評価の充実に努める。
⑤ 家庭学習につながる，個々の子にあった学習課題の設定に努める。

（取組結果を検証する）各種指標

確認プログラム，全国学力・学習状況調査，生徒アンケート，保護者アンケート，　総合的な学習の振り返りなど

中間評価

<table>
<tr><td colspan="2">各種指標結果
今回は全国学力・学習状況調査が中止となり，検証することができなかった。ただし確認プログラムでは，3 年生の数学・英語で高いポイントを示しているが，他の教科については，全市平均に近似している。また，生徒アンケートから見ると，昨年度に比べて家庭学習や読書にかかわる時間は伸びてはいるものの，まだ課題がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自己評価</td><td>分析（成果と課題）
学習確認プログラムにおいて，3 年では社会で全市平均を下回っている。例年同じ傾向が見られる。そのため，授業での工夫が必要である。1・2 年については学習確認プログラムの結果から，すべての教科についてはほぼ全市平均に近似しており，今後学力伸長の可能性がみられる。</td></tr>
<tr><td>分析を踏まえた取組の改善
新しい学習指導要領を踏まえ，各授業において，「主体的で，対話的な深い学び」を展開するため，コロナ禍のなかディスタンスも考慮しつつ，ジグソー法などのアクティブラーニングを意識した授業改善を更に進める。
教科会での，結果の分析，授業改善に向けた取組を進め，学力向上のための取組を実践するとともに，家庭学習の定着・充実を図り，「自ら学ぶ力」の育成を目指す。
また進路指導は，3 年生の進路決定のみのものではなく，生徒のキャリア発達の視点から全学年で取り組む。図書館司書の先生とも連携を強化しつつ，読書の楽しさを教えるとともに学校図書館の充実を図る。</td></tr>
<tr><td>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
確認プログラム，生徒アンケート，保護者アンケート，総合的な学習の振り返りなど</td></tr>
<tr><td>学校関係者評価</td><td>学校関係者による意見・支援策
今後も引き続き学力向上に取り組むとともに，図書館司書の先生との連携も深めつつ，生徒の読書習慣の定着を図ってほしい。支援策としては，家庭・地域へ学校の取組を伝えつつ，協力を促していく。</td></tr>
</table>

最終評価

<table>
<tr><td colspan="2">中間評価時に設定した各種指標結果</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自己評価</td><td>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</td></tr>
<tr><td>分析を踏まえた取組の改善</td></tr>
<tr><td>学校関係者評価</td><td>学校関係者による意見・支援策</td></tr>
</table>

（２）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 ◇人権意識の高揚をはかり，豊かな人間性を育て，自ら律する心を育成する。 ◇たくましく生きるための健康や安全を考え，行動する力を育成する。
具体的な取組 ① よんきゅう絆プロジェクトの推進を図る ② 道徳教育の推進に努める。 ③ 規範意識の内面かをはかるとともに，自ら律する心を育てる。 ④ 「いじめ」のない集団づくり，絆づくりに努める。 ⑤ 子どもの困りに気付くとともに，問題行動等の予防と対応に努める。 ⑥ 不登校対策委員会を中心に全教職員で不登校の未然予防と，学校復帰を目指した支援に努める。
（取組結果を検証する）各種指標 生徒アンケート，保護者アンケート，「いじめ」についてのアンケート，クラスマネジメントシート，インプレッションタイム発表など

中間評価

各種指標結果 あいさつ運動やCAN活動（今年度途中から中止）の取り組みについては定着している。 規範意識は高く，行事などへの取り組みも積極的で達成感を感じている。	
自己評価	分析（成果と課題） 学校生活については，昨年度より満足感が高まっており，今までの取組の成果が感じられる。「みんなが楽しい中京中学校」をめざし，後期もさらに取組を進めたい。 また生徒アンケートの結果と保護者アンケートの結果の認識のずれが課題である。
	分析を踏まえた取組の改善 生徒会を中心としてあいさつ運動を今後も引き続き展開，校区ブロック内での小中連携の中で合同のあいさつ運動も可能な範囲で実施する。 引き続き「みんなが楽しい中京中学校」をめざし，努力していく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 生徒アンケート，保護者アンケート，「いじめ」についてのアンケート，インプレッションタイム発表など
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 あいさつ運動，CAN活動（コロナ禍のため，現在は休止中）は地域から見ていて定着しているので，このまま進めてほしい。地域としても，特にCAN活動再開後は積極的に関わっていくことによって支援する

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題

<table>
<tr><td>評価</td><td>分析を踏まえた取組の改善</td></tr>
<tr><td>学校関係者評価</td><td>学校関係者による意見・支援策</td></tr>
</table>

（３）「健やかな体」の育成に向けて

<table>
<tr><td>重点目標
◇たくましく生きるための健康や安全を考え，行動する力を育成する。
◇キャリア教育の視点に立ち，学びを生活や自己の生き方に生かす力を育成する。
◇家庭と地域社会との連携を密に進める。</td></tr>
<tr><td>具体的な取組
① よんきゅう絆プロジェクトの推進を図る。
② 望ましい生活習慣の形成と健康や体力の保持に努める。
③ 自立して社会の発展に主体的に寄与する力の育成に努める。
④ 自らの生き方を考える力を養うとともに，キャリア教育に視点を置いた進路保障に努める。
⑤ 地域の活動に貢献できる生徒の育成と土壌づくりに努める。</td></tr>
<tr><td>（取組結果を検証する）各種指標
生徒アンケート，保護者アンケート，新体力テスト，保健室より治療率・来室状況など</td></tr>
</table>

中間評価

<table>
<tr><td colspan="2">各種指標結果
朝食摂取率は高い。
健診結果からの受診率については多少改善がみられるが，課題は残る。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自己評価</td><td>分析（成果と課題）
朝食は取れているが，就寝時間が遅い。また，保護者と生徒の認識についてアンケートからずれがみられる。
受診率の更なる改善は必要である。</td></tr>
<tr><td>分析を踏まえた取組の改善
学力を向上させるためにも，規則正しい生活は必要であり，保護者と協力し，取り組んでいく。
受診率向上のためにも保護者へ保健だよりや懇談を通じて働きかけを強化する。</td></tr>
<tr><td>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
生徒アンケート，保護者アンケート，保健室より治療率・来室状況など</td></tr>
<tr><td>学校関係者評価</td><td>学校関係者による意見・支援策
引き続き生徒全員が朝食を食べるよう取り組むようお願いしたい。また就寝時間や受診率の改善向上については引き続き取り組んでほしい。地域としても働きかけをしていくことで支援する。</td></tr>
</table>

最終評価

<table>
<tr><td colspan="2">中間評価時に設定した各種指標結果</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自己評価</td><td>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</td></tr>
<tr><td>分析を踏まえた取組の改善</td></tr>
<tr><td>学校関係者評価</td><td>学校関係者による意見・支援策</td></tr>
</table>

（４）学校独自の取組

<table>
<tr><td>重点目標
◇「小中一貫教育」における９年間の教育目標
「未来を拓きしなやかに生きる子どもの育成」（よんきゅう絆プロジェクト　小中一貫目標）
◇９年間で目指す子ども像（よんきゅう絆プロジェクト　めざす子ども像）
・自ら進んで学習する子　　　・自ら考え表現する子
・他者との関わりを大切にし、正しく判断・行動する子</td></tr>
<tr><td>具体的な取組
よんきゅう絆プロジェクトの推進（各部会等，推進体制及び構想図に従い，より一層の活性化を目指す）
夏季研修を１３校で行い，小中一貫教育に向けての意識の向上を図る。</td></tr>
<tr><td>（取組結果を検証する）各種指標
生徒アンケート，保護者アンケート，職員アンケート</td></tr>
</table>

中間評価

<table>
<tr><td colspan="2">各種指標結果
今年度はコロナの影響により，よんきゅう絆プロジェクトの取組が大幅に変更となった。しかし，その中でもできることを考え，あいさつ運動，中学校紹介のビデオ作成，ポスターの制作をする予定にしている。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自己評価</td><td>分析（成果と課題）
今年度はプロジェクトの取組大幅に変更になっている中，児童・生徒中心の活動が進められている。小小・中中・小中の連携は取りやすくなった。特に中学校ブロック内で，小中の教職員の関係がいわゆる「顔が見える関係」となり，互いの意思疎通，連携がスムーズにいくことが増えた。</td></tr>
<tr><td>分析を踏まえた取組の改善
よんきゅう絆プロジェクトの各部会の中で９年間を見通しためあてと取組の具現化。</td></tr>
<tr><td>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
生徒アンケート，保護者アンケート，職員アンケート</td></tr>
</table>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 　引き続き小中の連携を進めてほしい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果		
自己評価	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題	
	分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	

（５）業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標 教職員一人一人が仕事への取り組み方について見直しを図り，働き方改革に対する意識を高める。
具体的な取組 ・学校行事を精選する。 ・会議や校内研修会について見直しを図り，効率化する。 ・電話応対時間を午後７時までとし，以降は留守番電話に切り替える。また，通常の業務終了時刻は午後７時３０分とする。 ・働き方改革に関する研修を行う。
（取組結果を検証する）各種指標 ・教職員の勤務時間 ・教職員からの聞き取り ・年休取得率

中間評価

各種指標結果 　８０時間を超える長時間勤務は，ほとんど見られない。今年度は行事もほとんど中止になったが，その代わり７時間授業や補充学習等教職員の負担は昨年度に比べて増えた。しかし，今年度は職免，在宅勤務，年休取得についての意識は高まった。	
自己評価	分析（成果と課題） 　今年度，コロナの影響により学校行事の精選については，ある程度行えた。来年度以降，行事については再度考えていく必要がある。また各教職員の職務内容については，今後も常に見直しを図り，効率よく取り組んでいく必要がある。

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td>分析を踏まえた取組の改善
校内の取組にかける時間の見直し。校務支援員，学生ボランティア，部活指導員，外部コーチなど，外部の人材を用いた超過勤務時間の削減。</td></tr>
<tr><td>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
・教職員の勤務時間
・教職員からの聞き取り
・年休取得率</td></tr>
<tr><td>学校関係者評価</td><td>学校関係者による意見・支援策
子どもと向き合う時間は確保しつつ，超過勤務の削減に努めてほしい。</td></tr>
</table>

最終評価

<table>
<tr><td colspan="2">中間評価時に設定した各種指標結果</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自己評価</td><td>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</td></tr>
<tr><td>分析を踏まえた取組の改善</td></tr>
<tr><td>学校関係者評価</td><td>学校関係者による意見・支援策</td></tr>
</table>